

第2学年のガイダンスの機能を生かした単位時間の学級活動の指導計画案 《目次》

月	主 な 行 事	第 2 学 年			
		題 材 名	適 応		
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 始業式 ・ 入学式 ・ 生徒会オリエンテーション ・ 3年修学旅行 ・ 応援歌練習 ・ 体育祭 	1 2年生になって	◎		----- 5 5
		2 学級目標を決めよう	○		----- 5 6
		3 4 学級組織作り	○		----- 5 7
		5 選択教科で自分を伸ばそう	◎	◎	----- 5 8
		6 体育祭に向けて	◎	○	
		7			
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒総会 ・ 中間テスト 	8 自分を高める学習	○	◎	----- 5 9
		9			
		10			
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区中総体 ・ 期末テスト 	11			
		12 人はなぜ働くのか		◎	----- 6 0
		13 人はなぜ学ぶのか	○	◎	----- 6 1
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県中総体 ・ 期末面談 ・ 終業式 	14 一学期の学級反省	○		----- 6 2
		15 一学期の学年反省	○		----- 6 3
		16 夏休みの生活設計	○		----- 6 4
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 始業式 ・ 地区陸上大会 	17 夏休みの収穫	○		----- 6 5
		18 二学期の計画		◎	----- 6 6
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区新人戦 ・ 中間テスト 	19 ボランティア活動		○	----- 6 7
		20 職業とは何か		○	----- 6 8
		21 職業の内容の調査 1		○	----- 6 9
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会立会演説会 ・ 県新人戦 ・ 文化祭 	22 職業の内容の調査 2		○	----- 7 0
		23 文化祭の取り組み	◎	○	
		24			
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県新人戦 ・ (総合「発表会」) ・ 期末テスト 	25 学ぶ制度の調査		◎	----- 7 1
		26 中学校卒業後の学ぶ道		◎	----- 7 2
		27 自分の力を高める	○	◎	----- 7 3
12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学期反省 ・ 期末面談 ・ 終業式 	28			
		29 二学期の反省	○		(一学期末の反省を準用してください)
		30 冬休みの生活設計	○		(夏休みの生活設計を準用してください)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 始業式 	31 冬休みの反省と新年の決意	◎		----- 7 4
		32 修学旅行の準備		○	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末テスト ・ 生徒総会 	33 自分の適性	○	◎	----- 7 5
		34 適性を生かす進路を選ぼう		◎	----- 7 6
		35 進路計画の立案 1		◎	----- 7 7
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公立高校入試 ・ 修了式 ・ 卒業式 	36 進路計画の立案 2		◎	----- 7 7
		37 私の通知表	◎		----- 7 8
		38 最高学年への心構え	◎		----- 7 9

「注」 ◎印は、適応や選択にかかわりの深い題材、○印は、適応や選択にかかわりのある題材

2年-1 題材名 「2年生になって」

1 目標

- ア 2年生としての生活を始めるに当たり、新たな希望を描かせ、一層充実した生活を送ろうとする態度と心構えをもたせる。
- イ 2年生としての希望や抱負を相互に伝え合わせることによって相互理解の輪を広め、各自が目標をもち、その達成のために全力を尽くそうとする意欲をもたせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **人間関係能力**：新しい級友とのコミュニケーションを積極的にとり、相互理解の輪を広め、一層深める。
- イ **感情統制能力**：新しい学級や友達関係への不安を取り除く。
- ウ **思考能力**：2年生としての希望や抱負をもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 2年生は**新しい自分を作るチャンス、自分を変える再スタート**であることを強調し、希望や抱負を大切にさせる。
- イ **2年生の生活の流れを理解させ**、2年生の生活での具体的な希望や抱負をもたせる。
- ウ 各自の希望や抱負を**ゲーム形式の活動**で伝え合い、和やかな雰囲気の中で相互理解を深めさせながら、希望や抱負を生かすための学級目標作りや学級組織作りに意欲的に取り組む決意をもたせる。

4 展開

経過	主な学習活動と生徒の反応等
導入 5分	1 始業式や入学式を終え、2年生になった感想を発表する。 各自の2年生にかける希望や抱負を語り合い、力強いスタートを切ろう
展 40分	2 担任の先生の願いを確認する。 ・学級開きの際の、担任の先生の方針を再確認する 3 行事や活動を中心にして2年生での学校生活の大きな流れを理解し、それらに対する希望や抱負をもつ。 (1) 1年生での経験を踏まえ、2年生ではどのような学校生活を送るのかを発表し合う。 (2) 2年生での生活に対する自分の希望や抱負をはっきりさせる。 4 生徒同士で、2年生の生活に対する希望や抱負を伝え合う。 ・[希望・抱負伝言ゲーム]のやり方の説明を受けてから活動を行う
終 5分	5 本時の活動の感想や、みんなの希望や抱負を聞いての自分の決意を発表する。 ・新しい級友と打ち解けた ・自分の希望や抱負の実現に向けて全力を尽くす ・級友と共に学級の活動がんばる

主な指導と援助

5～6名に発表してもらい、新しい学年の生活への希望や期待と、新しい人間関係への若干の不安があることを浮き彫りにする。
そして、各自の希望や抱負を伝え合い、相互理解を深めながら、みんなで目標の達成や充実した2年生の生活のスタートを切るための活動することをテーマとして確認する。

新しい自分を作るチャンス、自分を変える再スタートである（過去は問わず、これからの言動を見ていく）こと、中堅学年としての立場と役割を自覚した言動を期待することを確認する。

できるだけ多くの生徒に発表の機会を与え、多種多様な行事や活動を挙げさせる。
挙げられた行事や活動は、年間の流れがわかるように黒板に整理する。
年度途中で学校の最高リーダーの立場に切り替わっていくことを理解させる。

思考能力に関する工夫

→ **2年生での生活の流れを基にした希望や抱負の明確化**

[希望・抱負伝言ゲーム]の進め方
・決められた時間内で、男女を問わずできるだけ多くの級友と希望や抱負を伝え合い、握手をする。
・教師は計時を行い、あわせて和やかな雰囲気になるように配慮する。

人間関係能力や**感情統制能力**に関する工夫

→ **希望・抱負伝言ゲーム**

級友との関わりの中で感じたこと、考えたこと、今後に生かしたいことを振り返らせる。

5 事後指導

- ・本時で考えた2年生での生活に対する希望や抱負を、次時の学級目標設定の活動に生かす。

2年-2 題材名 「学級目標を決めよう」

1 目標

ア 「こんな学級がいい」という共通理解を図らせ、集団の一員としての自覚をもって望ましい学級作りをしていくための「学級目標」を設定させる。

イ 中堅学年としての立場と役割を自覚させ、学級集団の連帯や向上を図らせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

ア **思考能力**：こんな学級にしたいという願いや考えをもつ。

イ **問題解決能力**：みんなの願いを基に、どんな学級をつくるのか話し合い、自主的に学級目標を決める。

ウ **意志決定能力**：2年生での目標達成に向けて、全力を尽くす決意をもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

ア 事前に「こんな学級がいい！」のカードに各自の思いや願いを書かせ、それを**集計した結果を配付**しておき、よく読んで話し合いに臨むようにさせる。

イ 学級目標は学級生活のよりどころとなるものであるから、具体的で評価が可能なものになるようにさせる。

ウ 司会は、教師の事前指導を受けた生徒（仮議長）に行わせる。資料の準備は教師が行う。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入 5分	1 「こんな学級がいい！」のアンケート集計を確認し、活動のテーマを知る。 みんなの願いを反映させた「学級目標」を作ろう
展開 42分	2 学級目標作りにあたっての留意点や担任の先生の願い及び活動の進め方についての説明を聞く。 ・具体的で評価が可能なもの ・担任方針あいさつ内容の再確認 ・学級目標作りの活動の進め方 3 学級目標作りの活動をする。 (1) 数人ずつの任意のグループに分かれ、「こんな学級がいい！」のアンケート集計を基に、グループとしての学級目標の案を考える。 ・各グループの案とその理由 (2) 各グループからの案を基に話し合い、学級目標を決定する。 ・各グループからの案に対する質疑 ・各グループからの案の整理統合や修正 ・学級目標の決定
終末 3分	4 活動を振り返っての感想や決定した学級目標に対する感想を発表する。 ・みんなの意見や願いが込められた ・学級や自分の進むべき道がわかる ・学級組織決めも積極的に行う

主な指導と援助

アンケート集計結果から、学級のみんながおおよそどのような願いをもっているかを確認し、みんなの願いを反映させた学級目標を作ることを活動テーマとする。

思考能力に関する工夫

→「こんな学級がいい！」のアンケート集計

学級目標は学級生活のよりどころとなるものであるから、具体的で評価が可能なものになるようにさせる。
学級開きでの担任方針あいさつ内容を振り返らせ、担任の願いを確認する。
グループごとに話し合っ案を作り、それを全体でまとめていくことを確認する。
司会は、生徒（仮議長）が行う。

グループは、座席をみながら数名で適宜編制する。司会と発表者も適宜指定する。
その案を考えた理由についても発表できるように準備させる。

問題解決能力に関する工夫

→グループでの話し合い

各グループから出された案に対し、本時の活動テーマや「具体的で評価が可能なもの」という観点からの質疑をとおして案の整理統合や修正を行い、全員で一つの形にしていく。

問題解決能力 や意志決定能力に関する工夫

→全員での話し合い

学級目標作りの活動の経過と、自分及び級友の言動を振り返っての感想や、決定した学級目標の下での学級や自分のあるべき姿について考えさせ、発表させる。
次の学級組織作りの活動につなげる。

思考能力に関する工夫

→感想や気持ちの発表

5 事後指導

- ・生徒各自の「こんな学級がいい」のアンケート集計結果や、決定された学級目標を、通信等で紹介する。
- ・決定された学級目標を教室正面に掲示し、折に触れて学級目標に込められた願いを確認させる。

2年-3・4 題材名 「学級組織作り」 (2時間扱い)

1 目標

- ア 「学級目標」に沿った学級作りをするための学級組織の在り方（学級経営の基盤であり人間関係を円滑にする基盤となる学級組織の在り方）を考えさせ、生徒会活動との関連を踏まえながら、活発に活動できる学級組織を作らせる。
- イ 組織は、構成員の協力がなければ機能しないということを認識させ、責任をもって役割を遂行しようとする意欲をもたせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **問題解決能力**：みんなの願いを基に、どんな学級をつくるのか話し合い、自主的に学級組織を決める。
- イ **意志決定能力**：中堅学年として集団活動に積極的に取り組み責任を果たす決意をもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 学級目標決定後に、自分がやってみたい役職を考えさせておく。その際、学級目標のねらいを踏まえさせる。
- イ 個々の生徒が思いやりと責任をもって活動しようとする雰囲気を作る。また、特定の生徒の孤立や排斥行為などがないように留意する。
- ウ 司会は、教師の事前指導を受けた生徒（仮議長）に行わせる。資料の準備は教師が行う。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入 10分	<p>1 学級目標とその願いを踏まえ、その実現を目指す学級組織を作ることを確認する。</p> <p>「学級目標」を実現していくために個々の願いが反映された学級組織を作ろう</p>
展開 85分	<p>2 学級組織作りにも当たっての留意点を確認し、進め方について決定する。</p> <p>(1) 学級組織作りにも当たっての留意点について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒会とのかかわり ・学年生徒会とのかかわり <p>(2) 学級組織作りの進め方について決定する。</p> <p>ア 役員決定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決める役職の順番 ・候補者の擁立と決定の仕方 ・候補者が重複した場合の決定の仕方 <p>イ 班や当番の決定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班の構成と班員の決定の仕方 ・座席の決定の仕方 ・清掃区域や給食当番の割当の仕方 <p>ウ 係活動の決定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な係の種類 ・係員の決定の仕方
85分	<p>3 学級組織作りの活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級組織作りにも当たっての留意点や進め方に沿って決定する
終末 5分	<p>4 決定した学級組織を確認し、組織の中での自分の役割について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織が機能するように責任を果たす ・学級目標の達成に向けてみんなと協力して活動する

主な指導と援助

学級目標を全員で復唱し、それに込められた願いを確認する。学級目標を実現するための学級組織はどうあればよいかをグループで考えさせ、発表させる。

問題解決能力 に関する工夫

→ **グループでの話し合い**

学級で選出すべき役員や委員などが全校や学年の組織とどのようにかかわっているかを示した組織図を用意し、それに沿って確認する。
役員や委員などが決定したら、組織図を拡大し、それに役員や委員名を書き添えて（短冊を作って貼り付ける）学級掲示に生かす。

話し合いによって、学級組織作りの進め方について決定していく。
司会は、生徒（仮議長）が行う。
話し合いをとおしてみんなが共通理解することによって協力が生まれ、守られていくことを確認する。

役員決定については、組織図を基にしながら考えさせる。候補者の擁立については、事前にやりたい役職を考えさせているので、意欲を優先し立候補を原則に進めるように導く。

意志決定能力 に関する工夫

→ **立候補を原則とすること**

係活動の決定については、生徒の意見やアイデアを学校の教育活動の中で最大限尊重することによって意欲をもたせ、活動を活発にさせる。

問題解決能力 に関する工夫

→ **係活動のアイデア**

問題が生じた際は、その都度話し合いによって解決する。

問題解決能力 に関する工夫

→ **話し合い活動**

希望とは異なった役割であっても、集団の一員としての立場を自覚し、明るく楽しい学級となるように活動する決意をもたせる。

意志決定能力 に関する工夫

→ **自己の考えや気持ちをまとめる作文**

5 事後指導

- ・組織図を拡大し、それに役員や委員名を書き添えて（短冊を作って貼り付ける）学級掲示に生かす。
- ・決定した役員や委員・係等を、通信等で紹介する。

2年-5 題材名 「選択教科で自分を伸ばそう」

1 目標

- ア 選択教科のねらいを確認させ、自校の2年生での選択教科の種類や授業時数などについて知らせて選択教科への関心を高める。
- イ 2年生での選択教科の選択の仕方について理解させるとともに、自分の興味・関心にあわせて適切な選択を行い、意欲的に取り組もうとする態度を養う。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：選択の理由を自分で考える。（体験期間を通して自分にあった選択をする。）
- イ **問題解決能力**：選択に迷った際は、より多くの情報を求め、教育相談を受ける。
- ウ **意志決定能力**：将来の生き方を考えながら、個性の伸長を目指して選択教科を選択する。
- エ **情報選択能力**：選択教科のねらいや教科の種類、授業時数などから、選択の可能性をとらえる。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 学年合同での学級活動とし、**選択教科担任の協力を得ながら**選択教科の学習のあらましを理解させ、選択の可能性（幅）を広げさせる。
- イ 選択の考え方の例として、**3年生の先輩の体験談を生かし、それを基にグループ討論する。**

4 展開

時間	主な学習活動と生徒の反応等
導入 5分	1 2年生の選択教科のあらましを知り、選択の仕方について考えることを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 選択教科のあらましと、適切な選択の仕方について知ろう </div>
展 開 38分	2 選択教科のねらいと、自校の2年生での選択教科の種類や授業時数、選択の仕方などについて、教務主任の先生の説明を聞く。 ・選択教科のねらい ・選択教科の種類と授業時数、教科担任 ・選択の上での留意点 ・選択教科決定の手順 3 各選択教科の学習内容や学習方法、必要な経費や物品などについて、教科担任の先生からの説明を聞く。 ・学習内容や学習方法 ・必要な経費や物品 ・適正人数 4 3年生の先輩の体験談を聞く。 ・選択教科の選択の理由 ・その選択教科を学んでの感想 5 選択教科の説明を聞いて、選択教科を有意義にするためにどのようなことに留意すればよいかについて、グループ討論する。 ・どうしても迷った場合は教育相談
終 末 7分	6 どんな考えでどの教科を選択するかを、各自でまとめる。 ・希望する教科とその理由・決意 （第二希望まで） ・選択に当たっての要望

主な指導と援助

1年生の時の選択教科の選択で、よかったことやよくなかったことを出し合う。
 2年生の選択教科の選択に当たって、よりよい選択の在り方について考えることを、活動テーマとすることを確認する。

学年の学習担当の先生が司会する。
 選択教科の開設状況については、2年生のものだけでなく、3年生の例もあわせて資料を用意し、来年度への見直しをある程度もたせる。
 選択教科申込用紙の記入の仕方と共に、決定までの手順についても説明する。
 状況によっては第一希望通りにならないこともあること、正式決定までの間に2単位時間程度試行機会をおくことや随時教育相談を行うことを付け加えておく。

「選択教科」の関連資料

すべての選択教科の概要を一覧表にした資料を用意し、それに沿って説明する。
 教科担任の先生が、独自に資料や授業風景などの写真を用意して説明してもよい。

情報選択能力 に関する工夫

→教科担任の協力

生の声で体験談を聞かせることができない場合は、録音しておいて聞かせる。
 開設されているすべての選択教科について聞かせる。

情報選択能力 に関する工夫

→先輩の体験談

興味・関心の拡大、個性の伸長、将来の生き方との関連などの視点に気付かせる。
 不適切な例から考えることも示唆する。

問題解決能力 に関する工夫

→選択の在り方についてのグループ討論

選択教科の選択について、自分の考えや気持ちを整理し、選択教科申込用紙にまとめさせる。

思考能力 や意志決定能力 に関する工夫

→自己の考えや気持ちをまとめる作業

5 事後指導

- ・正式決定までの間の試行機会や、随時の教育相談を利用し、より適切な選択をさせる。

2年-8 題材名 「自分を高める学習」

1 目標

- ア これまでの学習の取り組みを振り返らせ、各自の学習の悩みや不安を明確にし、それを克服して学校や家庭での日々の学習の効果をより一層上げる方法を考えさせる。
- イ 多くの人の学習方法や工夫を知り、自分に合った効果的な学習方法を考えることで、意欲的に学習に取り組む態度を育てる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **感情統制能力**：学習上の悩みや不安について客観的にとらえる。
- イ **問題解決能力**：学習の悩みや不安の解決で、どうすれば効果が高まり成果が上がるかを考える。
- ウ **意志決定能力**：解決策に基づいて信念をもって学習に取り組む。
- エ **情報選択能力**：級友の体験などから不得意教科や学習上の悩みの解決方法を取り入れる。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 学習の悩みに関するアンケートを行い、学習への取り組み状況や学習上の悩み・不安についてまとめておく。
- イ 先輩や級友から、学習方法の成功例や失敗例を聞き取り調査し、資料とする。

4 展開

時	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 学習の悩みについてのアンケート結果を確認し、活動のテーマを知る。 学習についての悩みを出し合い、その解決策や効果的な学習方法を考えよう
3分	
展開	2 「悩み相談会」を開いて悩みを出し合い、その解決策を考える。 (1) アンケート結果から共通する悩みのテーマを三つ程度に絞る。 (2) 班毎に、悩みのテーマに対する解決法を話し合う。 (3) 悩みのテーマ毎に、各班で話し合った結果を発表する。 (4) 班の中で、各自が悩みを話し、他の人が解決法を答える。 (5) 各班で解決策が見つからないものを書き出す。 (6) 学級全体で意見を出し合う。 (7) 先生からのアドバイスを聞く。
40分	3 不得意教科を克服し、学習を効果的に行うにはどうすればよいかを考える。 (1) 不得意な原因について各班で話し合い、共通する原因がないか考える。 (2) 教科毎の効果的な学習方法について、事前にまとめておいた資料を基に考える。
終末	4 本時の活動を振り返り、自分自身の学習の悩みをどのように解決していくか、不得意教科を克服し効果的な学習にするためにどのようにしていくかをまとめる。 ・無理なく継続して実行できるものを考える
7分	

主な指導と援助

アンケート結果から、学習に関する悩みは、誰もがもっていることであり、しかも多様であることを把握させ、学習上の悩みの解決方法や効果的な学習方法について考えることを活動テーマとすることを確認する。

学習の悩みに関するアンケート

不得意教科の克服法については、後半で共通に考えるので、テーマからはずしておく。

司会者と記録者、発表者を決めて相談会を進める。各自が自分の考えを必ず述べるようにする。

一人一人の悩みの相談に乗り、真剣に考えてあげるのが本時の活動の中心であるので、(4)の時間を十分に確保する。場合によっては、(1)のテーマを、各班に割り当てて(2)(3)の時間を短縮する。

感情統制能力 に関する工夫
→自分の学習上の悩みの表明

問題解決能力 に関する工夫
→班や学級での話し合い
学級全体でも良い考えが見つからない場合は、教師のアドバイスでフォローする。

原因が自分以外にあると責任逃ればかり考えないように、自分をしっかり見つめさせる。
学習の仕方に、ムリ・ムダ・ムラがないか考えさせる。

情報選択能力 に関する工夫
→先輩や級友からの学習方法の成功例や失敗例

将来の夢の実現のためにも努力しなければならないことに触れ、実行への決意を高める。
実行できなければ意味をもたないことを踏まえさせ、自分を伸ばすために自分にできる具体的な方法を考えさせる

意志決定能力 に関する工夫
→自分の学習の悩みの解決法と効果的な学習方法

5 事後指導

- ・教科担任とも連携し、個別の相談時間を確保する。
- ・効果的な学習方法や各自のまとめは、進路コーナーや通信等でも紹介する。

2年-12 題材名 「人はなぜ働くのか」

1 目標

- 1年「働く人びとの仕事と考え」で学習
- ア 「職業の三要素」について復習し、働く目的について考えさせる。
 - イ 将来、どんな考えや態度で働いたらよいかを考えさせ、望ましい職業観や勤労観の基礎を培い、職業的・社会的自己実現を目指させる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：自分は将来どんな考えや態度で働いたらよいかを考える。
- イ **意志決定能力**：将来、どんな態度で働くか、どんな生き方をするかの方向性を考える。
- ウ **情報選択能力**：職業の要素を知り、自分の生き方を照らし合わせる。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 事前に「**職業を選ぶ基準アンケート**」を実施し、資料化しておく。
- イ 人は何のために働くのか、「生き方」について**パネルディスカッション方式**で考えさせる。（事前指導が必要）

4 展開

経過	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 「 職業を選ぶ基準 」のアンケート結果を確認し、活動のテーマを知る。 人は何のために働くのだろうか、「 職業を選ぶ基準 」についてみんなで考えよう
3分	
展開	2 テーマについての話し合いの方法と目的について、先生からの説明を聞く。 ・パネルディスカッション ・視野の拡大と職業観や勤労観の基礎作り
	3 パネラーの主張（職業選択の基準として一番に価値を置くこととその理由）を聞く。
	4 各パネラーの主張を聞いて感じたことを、ワークシートに記入する。 ・「なるほど」「そうか」と思ったこと ・「自分の考えとは違うな」と思ったこと ・質問したいこと・聞きたいこと
開	5 各パネラーに、質問をする。 ・A～Eの全員に質問し、意見交換する
40分	6 意見交換を基に、自分の「 職業を選ぶ基準 」の順位を検討し、ワークシートに記入する。
	7 先生から、1年生で学んだ「 職業の三要素 」の復習と併せて、職業観や勤労観についての説明を聞く。
終	8 本時の学習の感想を、「 職業の三要素 」を踏まえて、ワークシートに記入する。 ・自分の能力を生かしたい ・社会的な貢献をしたい ・多くの収入を得たい
7分	

主な指導と援助

アンケート結果から、「**職業を選ぶ基準**」は多様であることを把握させ、人は何のために働くのかをより深く考えることを活動テーマとすることを確認する。

「職業を選ぶ基準」アンケート

事前にパネラーを選出し、リハーサルしておく。
どの考えが良いか悪いかという優劣を考えるのではなく、さまざまな意見に触れて、職業に対する視野と考えを広めることに留意させる。

- 各パネラーの職業選択の基準は、次のとおりとする。
- A：収入が多くて、豊かな生活ができる
 - B：社会的な地位や名声が得られる
 - C：社会や人のためにつくせる
 - D：自分の個性や能力を生かせる
 - E：安定してゆとりがある

情報選択能力に関する工夫

→各パネラーの主張から感じたことをまとめる活動

自分自身の判断で検討・決定し、自己の変容を確認させる。

思考能力に関する工夫

→「**職業を選ぶ基準**」の順位をワークシートに記入

職業選択の基準A～Eは、すべて「**職業の三要素**」でくくられることを確認する。
職業観・勤労観は多面的であり、それぞれが真理の側面であること、自分の「**生き方**」と結びつけて考えていくことが大切であることに気付かせる。

自分の希望する職業や夢と照らし合わせて考えさせる。

意志決定能力に関する工夫

→活動後の各自の職業観や勤労観をワークシートに記入

5 事後指導

- ・身近なところで働く人々の考えを聞く。
- ・本等で、自分の考える「**職業選択の基準**」に合う職業を探す。

2年-13 題材名 「人はなぜ学ぶのか」

1 目標

- ア 「自分は何のために学んでいるのか」について、級友との話し合いを基にして、勉学や進学目的及び生涯学習について多面的に理解させる。
- イ 「自分が勉強する理由」を考えさせる過程で、自分の勉学観や生き方・在り方への関心を高める。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **意志決定能力**：将来、どんな態度で働くか、どんな生き方をするかの方向性を考える。
- イ **問題解決能力**：学ぶ目的を、将来の生き方や在り方と関連付けて考える。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 「私が勉強する理由」に関する各自の意見を基にした話し合いを通して、生涯学習の心構えを作らせる。
- イ 生涯学習の場で学んでいる人々へのインタビューを紹介し、望ましい勉学観と生涯学習の心構えをつくらせる。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 「私が勉強する理由」のアンケート結果を確認し、活動テーマを知る。 人は何のために学ぶのか、「学習の目的」についてみんなで考えよう
展開	2 テーマについての話し合いの方法と目標について、先生からの説明を聞く。 ・ジグソー学習 ・一人一人が責任をもって話し合いに臨む 3 「学習の目的」についてジグソー学習をする。 (1) 最も重要だと考えた項目毎にグループを作り、理由を話し合い、結論をまとめる。 (2) 重要でないと考えた項目毎にグループを作り、理由を話し合い、結論をまとめる。 (3) 生活班に戻って個々のグループで話し合われた内容を発表し合い、情報を共有する。 (4) 先生からのアドバイスを聞く。 4 生活班に戻り、仲間との情報交換をする中で「学習の目的」についてより深く考えたことをまとめる。 5 生涯学習の場で学んでいる人達の、学習に対する考えのインタビューを聞く。
終末	6 本時の活動を振り返り、今自分が中学校で学ぶことの目的や意味を考えまとめる。 ・自分の将来の希望を叶えるため ・自分を伸ばし豊かな人生を送るため ・次の世代を築く一員としての力をつけるため

主な指導と援助

アンケート結果から、級友の「勉強する理由」は多様であることを把握させ、人は何のために学習するのかをより深く考えることを活動テーマとすることを確認する。

「私が勉強する理由」アンケート

ジグソー学習では、一人一人が、いくつかのカウンターパートセッション(3の(1)(2))で話し合われた情報を、確実にジグソーセッション(3の(3))の中で伝えなければならないことを理解させる。

出された意見を、ワークシートに簡単にメモさせながら、話し合わせる。

班長に司会させ、3の(1)、(2)で出された意見を、班員全員に発表させる。
班員は、発表された意見の中から「なるほど」と思ったこと等をメモしながら聞く。

学ぶことの目的や意味について、従前からの考えにとらわれずに柔軟に考えさせる。

問題解決能力に関する工夫

→情報交換を経た上での「学習目的」についての考え

社会の変化や個人の夢の変化等によって、実社会に出て学ぶ必要があること、そうした場で学んでいる人の学習に対する考えから学ぶべき点について留意させる。

生涯学習の場で学んでいる人々へのインタビュー

学ぶことの目的や意味を、将来の自己実現に結び付けながら、多面的に考え、中学校の学習の大切さについてまとめさせる。

意志決定能力に関する工夫

→中学校で学ぶことの目的や意味を生き方と関連させる

5 事後指導

- ・授業後の感想を、通信等で紹介し、家庭からもそれらに対する意見や感想をもらう。
- ・身近な人からも、「学ぶことの目的や意味」についての考えを聞き取りさせる
- ・生涯学習の場で学んでいる人々に対して、学んでの感想を添えてお礼の手紙を出す。
- ・身近な地域に、社会に出てからも学べる場や機会があるか調べる。

2年-14 題材名 「一学期の学級反省」

1 目標

- ア 一学期の学級の活動、班の活動を振り返り、成果と課題を明確にして、夏休みと二学期の生活につなげる。
- イ よりよい学級の姿を目指して話し合う。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **思考能力**：一学期の学級の活動、班の活動を振り返り、成果と課題を明らかにする。
- イ **問題解決能力**：課題を解決し、よりよい学級にするための方策を考える。
- ウ **意志決定能力**：話し合いの決定事項を、二学期の生活で達成させるよう決意する。

2年-14と2年-15は、学年2学級程度の場合に、2時間目に学年集会を開いて学期の活動をまとめる展開例を示したものである。
学級独自で学期の活動をまとめる場合には、1年-16と1年-17の展開を参照願いたい。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 学級目標の願いに基づいて振り返らせる。
- イ 学級の諸活動の反省、班活動の反省を行い、**学年集会の議案にまとめさせる。**

4 展開

経過	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 一学期の学級での生活を振り返って、思い出や感想を述べ合い、活動テーマを確認する。 一学期の学級及び班の活動の成果と課題を明らかにして、夏休みや二学期につなげよう
3分	
展	2 学級活動の振り返りのワークシートに従って、班毎に一学期の取り組み状況話し合う。 ・生活面、学習面、行事面の成果と課題
	3 各班で話し合われた結果を発表し合い、学級としての意見にまとめあげる。 (1) 挙げられた成果を確認し、讃え合う。 (2) 挙げられた課題点から、学級全体の課題として取り上げるものを確認する。 ・学習面、生活面、行事面の課題
	4 課題点を踏まえ、学級として二学期にどのようにしていくのかを、班毎に話し合う。
	5 各班で話し合われた結果を発表し合い、学級としての意見にまとめあげる。 ・学習面、生活面、行事面の方向性
	6 各班毎に、一学期の自分達の班の活動を振り返り、反省用紙に記入し発表する。 ・活動の成果と課題
開	7 他の班から出された課題について、学級として二学期にどのようにしていくのかを、班毎に話し合う。
	8 各班で話し合われた結果を発表し合い、学級としての意見にまとめあげる。 ・各班の二学期の方向性
44分	
	9 話し合ったことを基に、二学期に向けてみんな学級を高めていくことを確認し合う。 ・二学期への期待や希望をもつ
3分	10 次時は、学年集会で学級の成果と課題、二学期の方向性を検討し合うことを確認する。

主な指導と援助

数名に自由に発表させる。
良かったこと、楽しかったことだけでなく、不十分だったこと等もあったことを想起させ、一学期の成果と課題を明確にして、二学期に生かす方策を考えることを活動テーマとして確認する。
本時は、学年集会に向けて学級の活動反省を行うことを確認する。

班の中で司会者と記録者、発表者を決めて進めさせる。
学級目標の願いを基にしながら、ワークシートにある項目に従って意見を出させる。

思考能力 に関する工夫
→一学期の活動の成果と課題の話し合い
一学期の成果について、担任からも大いに賞賛する。

問題解決能力 に関する工夫
→学級の諸活動の課題点の確認
学級全員で行動できるような視点で考えるように助言する。

問題解決能力 に関する工夫
→二学期の学級の方向性を考えさせる

思考能力 に関する工夫
→一学期の班活動の成果と課題の話し合い
一学期の各班の成果について、相互に賞賛させる。

問題解決能力 に関する工夫
→各班の活動の課題点の確認
具体的に実行が可能な内容になるように考えさせる。

問題解決能力 に関する工夫
→二学期の各班の方向性を考えさせる
みんなでエールを送り合ったり、円陣を組んで声を掛け合ったりさせる。
時間があれば、合唱で締めくくることが考えられる。

意志決定能力 に関する工夫
→二学期に向けての決意固め

5 事後指導

- ・学級執行部の生徒は、話し合いの結果（学級の意見）をまとめ、学年集会の資料にする。
- ・学年集会における学級提案の提案者等の分担を決める。

2年-15 題材名 「一学期の学年反省」

1 目標

- ア 一学期の各学級の活動、班の活動を振り返り、成果と課題を明確にして、夏休みと二期の生活につなげる。
- イ よりよい学級、学年の姿を目指して話し合う。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **人間関係能力** : 一学期の各学級の諸活動の成果と課題を認め合う。
- イ **問題解決能力** : 課題点や方向性を踏まえ、よりよい学級、学年にするために取り組んでいく事項を確認する。
- ウ **意志決定能力** : 話し合いの決定事項を、二期に、各学級や班の活動で実行するよう決意する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 学級での話し合いの結果をまとめた議案書を用意し、事前に配付して集会に臨ませる。
- イ **学年集会の形**をとり、互いの学級の活動について質疑を交わしたり相互評価したりさせる。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 学年生徒会長が、本時の学年集会の内容やねらい等について説明し、みんなで確認する。 一学期の各学級の活動の成果と課題を明らかにして、夏休みや二期の活動につなげよう
3分	
展開	2 各学級毎に、一学期の学級の取り組みの成果と課題、二期に向けての方向性を発表する。 ・生活面、学習面、行事面での成果と課題、方向性
	3 各学級の発表に対する質問や意見を述べ合う。 ・各学級の一学期の成果と課題に対する質疑 ・各学級の二期の方向性に対する意見
	4 学年として共通に取り組んでいくべき事項を確認する。 ・一学期の課題と二期の方向性の中から
	5 各学級毎に、一学期の各班の取り組みの成果と課題、二期に向けての方向性を発表する。 ・一学期の活動上の成果と課題 ・二期の活動上の方向性
44分	6 各学級の各班の発表に対する質問や意見を述べ合う。 ・各班の一学期の成果と課題に対する質疑 ・各班の二期の方向性に対する意見
	7 学年として共通に取り組んでいくべき事項を確認する。 ・一学期の課題と二期の方向性の中から
3分	
終末	8 話し合ったことを基に、二期に向けてみんなで学級や学年の活動を向上させていくことを確認し合う。 ・二期の学級や学年の活動への期待や希望 ・みんなで協力していこうという気持ち
3分	9 先生からの講評を聞く。

主な指導と援助

司会進行は、学年執行部または学年議長が行う。事前に、進行についての練習や、関係者との打合せをしておく。

学年集会による一学期反省

事前の役割分担に基づいて、各学級の担当が発表する。各学級毎に、一学期の生活面、学習面、行事面の成果と課題、二期の方向性を、議案書を利用して簡潔に発表する。議案書に、必要に応じてメモをとらせる。一つの学級について2番と3番の活動を行い、その次に別の学級について2番と3番の活動を行う方法でもよい。

各学級の活動のすばらしい点を学び合う視点をもたせる。

人間関係能力 に関する工夫

→一学期の各学級の活動の成果と課題への賞賛

必要性の高い事項、学年全体で取り組める事項を考えさせる。

問題解決能力 に関する工夫

→学年で取り組んでいく事項の確認

2番と同様に、事前に役割分担し、担当が議案書を利用して簡潔に発表する。議案書に、必要に応じてメモをとらせる。一つの班について5番と6番の活動を行い、その次に別の班について5番と6番の活動を行う方法でもよい。

各班の活動のすばらしい点を学び合う視点をもたせる。

人間関係能力 に関する工夫

→一学期の各班の活動の成果と課題への賞賛

必要性の高い事項、学年全体で取り組める事項を考えさせる。

問題解決能力 に関する工夫

→学年で取り組んでいく事項の確認

学年執行部が、話し合いの決定事項を読み上げる。各学級に対し、お互いにエールを贈り合う。時間があれば、合唱で締めくくることが考えられる。

意志決定能力 に関する工夫

→二期に向けての決意固め

5 事後指導

- ・話し合いの決定事項は学年執行部の通信で、話し合いの様子については学年通信等で紹介する。

2年-16 題材名 「夏休みの生活設計」

1 目標

- ア 一学期間の生活の反省に立って、中学生2回目の夏休みの在り方を考えさせる。
- イ 夏休みの意義や夏休みの生活のきまり、夏休み中の行事などを確認させ、夏休みを有意義に送るようにさせる。
- ウ 夏休みの生活と学習の目標を明確にし、それを実現させるための計画を立てさせて、実行する決意をもたせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **感情統制能力**：開放感に浸り、不規則・不摂生な生活に陥らないように心掛ける。
- イ **思考能力**：1年生での経験や一学期の反省に立ち、夏休みをどう送るべきか考える。
- ウ **問題解決能力**：有意義な夏休みにするため、しっかりした目標のもとに計画を立てる。
- エ **意志決定能力**：計画に沿って有意義な夏休みを送る気持ちをもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 前時までに取り組んだ、一学期の学級や班係の反省を踏まえさせる。
- イ 夏休み中の主な**行事や部活動の予定は、生徒会で一覧に**して配付する。
- ウ 夏休み中の**学習課題等については、教科係が教科担当に確認し、一覧に**して配付する。
- エ 「夏休みの生活のきまり」については、教師から説明する。**学年合同で実施することも**考えられる。

4 展開

時間	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 夏休みを迎えるにあたって、どんな気持ちでいるか発表する。 中学校生活2回目の夏休みを充実したものに するためにしっかりした生活設計を立てよう
2分	
展	2 夏休みの意義について先生の説明を聞く。 ・二学期、全校のリーダーへの大事な橋渡し
	3 1年生での夏休みの経験や、一学期の学級や係・班の反省を踏まえ、有意義な夏休みにするにはどうすればよいか班毎に話し合う。
	4 夏休み中の主な行事や生活のきまりについて、先生の説明を聞く。 ・関係資料を配付
	5 夏休み中の学習課題について、各教科係からの説明を聞く。 ・課題の一覧表を配付
	6 5番までの説明や話し合いを踏まえて、夏休みを迎えるに当たっての心構えを発表する。 ・開放感に浸ってはいられない
開	7 夏休みの計画表作りをする。 (1) 計画表の記入の仕方について、先生の説明を聞く。 (2) 生活と学習の目標を決める。 (3) 計画表作りを進める。
	43分
	終末
5分	

主な指導と援助

数名に発表させる。
みんなが楽しみにしていることを確認し、有意義な夏休みにするための生活設計を考えることを、本時の活動テーマとする。

夏休みの意義①社会的体験の拡充、②苦手な教科の克服や得意教科の伸長、③部活動の充実、④健康や体力の増進 等

1年生での経験については、思い通りにいかなかった時のことだけでなく、思い通りにいった時のことも踏まえさせる。

思考能力 に関する工夫

→有意義な夏休みにするための班毎の話し合い

「夏休みの生活のきまり」の中でも、健康や安全にかかわる事項は確実に指導する。
適宜質問を受け付けて、指導の徹底を図る。

5番までの説明や話し合いを踏まえ、夏休みを迎えるに当たっての心構えをしっかりともたせて、計画作りをさせる。

感情統制能力 に関する工夫

→夏休みの生活のきまりや課題等の自覚

具体的で評価が可能な目標、実行が可能な計画となるよう、留意させる。

問題解決能力 に関する工夫

→目標を明確にした上での計画表作り

全員に発表させて、各自のがんばりを誓い合わせる。
最後に、教師が生徒全員へのエールの言葉を述べる。

意志決定能力 に関する工夫

→夏休みの目標を発表し合う

5 事後指導

- ・夏休みの計画表を完成させて提出させ、激励、修正等のコメントを入れる。
- ・期末面談の中で、計画表を基にして夏休みの生活について話し合い、確認する。

2年-17 題材名 「夏休みの収穫」

1 目標

- ア 夏休み中の生活と学習の目標を、夏休みの計画に基づいて振り返らせ、成果と課題を確認させる。
- イ 夏休み中の行事等で感じたことや学んだことを発表させ、共有化させる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **感情統制能力**：夏休みの生活や学習が不本意に終わっても、その気持ちを引きずらないように心掛ける。
- イ **思考能力**：夏休みの目標や計画に沿って夏休みを振り返り、成果と課題を明確にする。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア **夏休みの計画表を活用**する。
- イ 夏休みの反省用紙を交換し合って、**ピア・カウンセリング**をする。

4 展開

経過	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 夏休みを振り返っての思い出や感想を発表し、活動テーマを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 中学校生活 2 回目の夏休みを振り返り、成果と課題を確認し合おう </div>
展開	2 夏休みの課題や提出物等を提出する。 ・通信票、保健票等 ・教科等の課題
	3 夏休みの反省の仕方について、先生から説明を聞く。 ・ピア・カウンセリングの手法を取り入れて、互いの夏休みの成果と課題を振り返ることを知る
	4 夏休みの計画表を基にしながら、「夏休みの反省用紙」にしたがって各自で夏休みを振り返る。 ・成果や課題を記入する（クライアント）
	5 任意の級友の成果や課題に対するコメントを記入する。（カウンセラー） ・クライアントの成果や課題に対して、アドバイスや励ましを記入する
	6 回答を熟読した上で、自分の思いや感想をまとめる。 ・カウンセラーがどんな思いでコメントを書いたかよく考える ・自分の思いや感想を記入する
	7 ピア・カウンセリングを取り入れて夏休みを振り返っての、自分の思いや感想を発表する。 ・頑張ったことを認めてもらってうれしい ・不本意だったのは自分だけでなかった ・新しい気持ちで二学期をスタートできそう
終末	
3分	

主な指導と援助

数名に発表させる。
 有意義な夏休みだったか、そうでなかったかを挙手させ、全体的な傾向を確認した上で、各自の夏休みについていくつかの観点から振り返り、任意の級友同士で互いに評価・激励し合うことを、本時の活動テーマとする。

通信票や保健票等は、担当が提出状況を確認する。
 教科等の課題は、各教科係に、本時の活動終了後に提出状況を確認させる。

カウンセラーになって、級友の夏休みの成果と課題にアドバイスや励ましを考えさせる。
 〈約束事〉
 ・否定的なこと、人がいやがることは書かない
 ・秘密は絶対に守る
 ・カウンセラー（答えてくれた人）を探さない

夏休みの成果と課題を素直に記入させる。
 反省用紙を二つ折りにし、裏に自分だけが分かる印を付けさせる。
 反省用紙を集め、任意の級友に渡るように再配付させる。

思考能力 に関する工夫
 →夏休みの計画に沿った振り返り

真剣にアドバイスや励ましを考えさせる。
 落ち着いたBGMを流して雰囲気を作る方法もある。
 書き終わったら、二つ折りにして提出させる。
 自分のマークの反省用紙を間違えずに持っていかせる。

次の観点から、自分の思いや感想をまとめさせる。
 ・成果や課題を書いたときの気持ち
 ・成果や課題にアドバイスや励ましを記入していた時の気持ち
 ・回答を読んだときの気持ち

数名に発表させる。
 仲間を信じて、前向きに二学期を歩んでいくように促してまとめる。
 「夏休みの反省用紙」に氏名を書かせて提出させる。

感情統制能力 に関する工夫
 →ピア・カウンセリングによるアドバイスと励まし

5 事後指導

- ・夏休みを振り返ってのアンケートを集計し、通信等で紹介する。
- ・1年生時にも同様のアンケートを実施していたならば、それらと比較して成長点を賞揚する。
- ・必要に応じて個別の相談や指導に生かす。

2年-18 題材名 「二学期の計画」

1 目標

- ア 二学期の大きな流れを把握させ、行事を中心とした取り組みを想起させて、どの時期にどんな生活を送るかの見通しをもたせる。
- イ とかく中だるみといわれる生活に陥りがちな夏休み明けに、一学期末の反省を基に二学期の活動を決めさせ、目標をもって意欲的に活動に取り組ませる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **人間関係能力**：問題解決のために互いの立場を理解し合い、認め合い、協力し合う。
- イ **感情統制能力**：全体の立場に立って考え、感情をコントロールする。
- ウ **問題解決能力**：誇れる学級にするための具体的な活動を話し合っで決める。
- エ **意志決定能力**：一人一人が自分の役割を理解し、互いに協力し合っで学級生活を向上させる。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 一学期末の反省（学級・学年）で確認された、「二学期に頑張っていくこと」を踏まえさせる。
- イ 「二学期の大きな流れ」を示した資料を用意し、行事を中心にして見通しをしっかりともたせる。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 先生からの、二学期における期待や思いを聞き、本時のテーマを確認する。 二学期の学校生活の流れをつかみ、学級としての二学期の計画を考えよう
3分	
展	2 行事を中心に、二学期の流れをつかむ。 ・二学期の主な行事を順番に確認する ・先生から、二学期の流れについて補足説明を聞く
	3 一学期末の反省（学級・学年）の結果を振り返り、二学期に学級として頑張っていくことを確認する。 ・生活の面 ・学習の面 ・行事の面 ・班活動
	4 3番で確認された事項を達成し、誇れる学級にするための具体的活動と取り組みの心構えを班ごとに考え、発表する。 (1) 具体的な活動について考える。 ・一人一人が進んで参加できるもの ・全員でやることで目標を達成できるもの ・まとまりを感じることができるもの (2) 取り組みの心構えについて考える。 ・みんなで協力すること ・各自の責任を果たすこと
40分	5 各班からの発表を基に、学級としての具体的活動と取り組みの心構えを決定する。 ・共通して出された活動や学級として大事にするべき心構えを中心にまとめる
終末	6 学級の活動の方針を受けて、各自がどのように頑張っていくか（果たすべき自分の役割）をワークシートに記入する。
7分	・仲間を信頼し、協力して学校生活を送る ・自分のできることを責任をもって精一杯行う

主な指導と援助

中学校生活も半ばを迎える学期が始まる。中学校生活に大分慣れてきている反面、中だるみも生じてくる。しかし、今学期中に生徒会の役員交代も行われ、次期リーダーへの確実なステップを踏み出さなければならない。そうしたことを踏まえながら、学級としてどういう成長を目指すのかを考えることを、本時の活動テーマとして確認させる。

1年生での経験を基に、二学期の主な行事を発表させる。教師が用意した「二学期の大きな流れ」を示した資料を基に、二学期の学校生活における諸活動の見通しをもたせる。

一学期末の反省（学級・学年）の記録を基にして、学級全員で確認し合う。一人一人の生徒に、しっかりと意識化させるために、確実に一学期末の反省（学級・学年）の記録に目を通させる。2番で確認させた「二学期の大きな流れ」ともかかわらせて、どの時期に何に力を入れていくかイメージさせる。

誇れる学級を目指すためには、どのような条件を備えた活動をするべきか考えさせた上で、具体的な活動を考えさせる。

人間関係能力 及び **問題解決能力** に関する工夫
→二学期の具体的活動と取り組みの心構えを考える

誇れる学級、「この学級で良かった」と思うようになるには、どんな心構えで活動するべきかを考えさせる。

各班から出された事項に対して、必要に応じて質疑を交わさせ、学級としての考えにまとめさせる。

問題解決能力 に関する工夫
→誇れる学級を目指す上で大事な事項を考える

生活の面、学習の面、行事の面から各自の努力事項を考えさせ、ワークシートに記入させる。

感情統制能力 及び **意志決定能力** に関する工夫
→各自の努力事項のワークシートへの記入

5 事後指導

- ・決定事項を学級掲示し、取り組みの前後（節目節目で）実行状況を確認させる。

2年-19 題材名 「ボランティア活動」

1 目標

- ア ボランティア活動に積極的に参加する意欲をもたせ、人間関係の在り方、社会的な自己の役割の自覚、自己肯定感（有用感）を培う。
- イ 身近なボランティア活動の情報を集め、参加計画を立案させる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：身近なボランティア活動の例から、自分は「何ができるか」を考える。
- イ **意志決定能力**：自分で考えて「できる」と判断したボランティア活動に積極的に取り組む。
- ウ **情報選択能力**：ボランティア活動の意義や内容、活動を理解する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア ボランティア活動の意義を理解させ、「何ができるか」考えさせる。
- イ 生徒会や地域のボランティア活動に関する資料を用意する。
- ウ **ボランティア活動参加計画書**を立案させる。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 身近なボランティア活動に、どんなものがあるか発表する。 ボランティア活動の意義や在り方を理解し、参加計画を立てよう
5分	
展	2 ボランティア活動とはどのようなものか、どのような意義があるのかを考え、発表する。 ・自らの意志で活動する（自発性） ・他人や社会のために奉仕する活動（公共性） ・報酬を期待しない活動（無償性）
開	3 具体的なボランティア活動を例に、どのような考えで実施されているのかを把握する。 (1) 学校や生徒会のボランティア活動の考え。 (2) 地域や国内外のボランティア活動の考え。
40分	4 身近なボランティア活動のうち、「自分たちでできるもの」を考える。 (1) 「自分でできるもの」を考える。 (2) 「班としてできるもの」を決定する。
分	5 班毎に、「身近なボランティア活動への参加計画書」を立案する。 ・初めに、活動内容を書き、その目的を考える ・次に、期日や日程等を考える
終	6 各班の参加目的と活動内容を発表する。
末	7 先生からボランティア活動を継続する上での秘訣を聞く。
5分	8 各班の発表や先生からの継続の秘訣を聞いて、ボランティア活動参加への抱負をまとめる。 ・各自で決意をワークシートに記入する

主な指導と援助

自由に発表させ、それを板書しておく。
一部に、ボランティア活動まがいの活動があることを指摘し、ボランティア活動の意義や在り方をしっかり理解した上で、「自分達ができる」ボランティア活動を考えることを、本時の活動テーマとして確認させる。

1番で出された活動を基に、ボランティア活動の三原則（創造性を加えて四原則とする考えもある）に気付かせる。難しい場合は、ボランティア活動ではない活動を例にして、考えさせる。

情報選択能力に関する工夫
→ボランティア活動の意義

学校や生徒会、地域や国内外で実施されているボランティア活動の資料を配付する。

情報選択能力に関する工夫
→ボランティア活動の考え方

既存のボランティア活動からだけでなく、自分達で新たに活動を考え生徒会や学校に要望していくことにも挑戦させる。

思考能力に関する工夫
→「自分でできる」ボランティア活動を考える

参加計画書は、ワークシートの形にしておく。
実施期日や当日の日程、事前の準備等は、班の中での希望として計画させ、相手がある場合は連絡を取って調整させる。
各班から1部提出させ、事後指導に生かす。

無理をしないこと、やりがい・喜びを感じることができる活動であること、周りの理解があること等が、やる気を喚起し、継続に結びつくことを紹介する。

意志決定能力に関する工夫
→ボランティア活動参加への決意

5 事後指導

- ・参加予定を取りまとめ、実施前に確認する。また、参加予定を通信等で紹介し、家庭からも声掛けをしてもらう。
- ・実施後は、逐次、短学活等で報告をし合う。また、通信等でも紹介する。